

名古屋港のここがポイント! 16



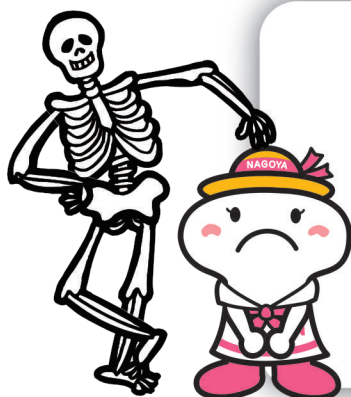
大航海時代の食事と病気



ヨーロッパ各国がスパイスを求めてインドや東南アジアにやってきた15世紀から17世紀頃を「大航海時代」といいます。手こぎの船ではせいぜい1週間くらいだった船旅は、帆船の時代になってから数か月も海の上で生活するようになりました。



長い船旅では食べ物が悪くなってしまうので、牛や豚やニワトリなどは船で飼育したよ。水も腐ってしまうから、かわりにビールやラム酒などのお酒を積んでいました。



海では、食べ物を腐らせないために、乾燥したビスケットや塩漬けの肉や魚しか食べられなかったから、船乗りの多くはビタミンCの不足で壊血病という病気で命を落としました。